

勝手にスピンアウト脚本

『北の国から'81 逃亡』（後編）

【富良野警察署・朝】

外観フラッシュ。

【富良野署内・捜査本部事務室】

掲示された「麓郷丸山橋殺人事件捜査本部」の看板。

30 人の捜査員たちを前に訓示をする道警刑事部長（イメージ：小林稔侍）。

刑事部長「・・・そういうことで、19 日の検死結果の洗い直し、それから二度目の現場検証の結果、本件は事故死ではなく、殺しの可能性が高まったということで、捜査本部を立ち上げることになった。道警からも精鋭の捜査員を派遣することにした。君ら全員一丸となって捜査に当たり、笠松さんの無念を晴らしてくれ。しっかり頼む」
捜査員たち「はい」

【捜査本部事務室】

黒板に書かれる事件の関係図など。

捜査員に説明する鈴井。

鈴井「事件のあった 18 日の夜、立石には残業の記録はない。奴が通っていた成田ジムを休み、晩飯で通っていた空知軒にも行かず、誰とも会っていない。したがって立石にはアリバイがない。

その上ここに挙げたとおり、いくつもの嘘を重ねており、奴は極めて怪しいといえる。・・・しかしだ。しょっぴくだけの材料が足りん。笠松さんとの接点がどこにあるのか。そして動機だ。動機がなければ話が始まらん。また物証もほしい。

山さんたちは、引き続き麓郷まわりの聞き込みを頼む。それから道警班は市内の聞き込みだ。それから鑑識班、現場の遺留物品をもう一回、徹底的に洗ってくれ。それから監視班、立石の監視を緩めるな！」

捜査員たち「はい」

【捜査風景のモンタージュ】

麓郷を歩く山村。

市内を歩く道警班。

自転車を拡大鏡で見る鑑識班。

立石を尾行する監視班。

中ノ沢分校に入る捜査車両。

酒瓶を調べる鑑識班。

分校の扉をノックする向井。

明かりが点き、入口で応接する涼子。

【捜査本部事務室・夜】

議論している本部の鈴井と捜査員ら。

山村の声「やっと動機が見えました！」

静まる捜査員たち。

飛び込んでくる山村。

山村「新しい証言です。布礼別小学校中ノ沢分校の木谷先生の話です」

見つめる鈴井。

手帳を見ながら報告する山村。

山村「18 日の昼、中ノ沢分校では授業参観がありました。分校には笠松さんの孫、正吉君が通学していて、父兄として出席した笠松さんと本校を代表して参加した立石は会っています」

ざわめき立つ捜査本部。

【イメージ・父兄参観のモンタージュ】

父兄参観に酩酊して入ってくる杵次。

怪訝そうに見る和夫。

心配そうな五郎。

山村の声「その参観日、笠松さんは朝から酒を飲んでいて、だいぶ酩酊していたそうです。その少し前に木谷教諭を中傷する差出人不明の手紙が生徒父兄のもとに届いたらしく」

手紙を手に何か言っている杵次。

手紙のアップ。

新聞記事のコピーに涼子の写真。

山村の声「その手紙には木谷先生がかつて東京で受け持っていた生徒を自殺に追い込んだ問題教師だという内容で、笠松さんはそのことを隠していたのは怪しからんと数日前から怒っており、授業参観が終わったところで木谷先生を問い詰めたのだそうです」

問い詰める杵次。

山村の声「立石が遮って子どもたちのいないところで話そうと言っ

ても笠松さんはやめなかった。そして木谷先生が話を引き取り、何があったのか詳しく説明をしたのだそうです」

遮ろうとする立石、

引き取る涼子。

山村の声「結局のところ、木谷先生が説明をしているさなか、別の父兄が笠松さんをつまみ出す形で終わり、笠松さんはお孫さんと一緒に帰っていったそうです」

五郎と和夫につまみ出される杵次。

正吉に支えられてふらふら帰る杵次。

【捜査本部事務室・夜】

鈴井「なるほど、そんな接点があったのか。で、他には何か聞けたか？」

山村「はい。父兄参観が荒れて終わり、父兄も児童も帰ったあとのことでした。

立石は『木谷先生がかわいそうじゃないか！子どもたちの前でなんて酷いことを言うんだ！畜生あのクソじじいが！死んでしまえ！』と大声で怒鳴り散らし、怒りをぶちまけていたということです。逆に木谷先生がまあまあ落ち着いてください・・・と、なだめたそうです」

鈴井「ほほ～う。そんなに怒っていたというのか・・・。」

山村「それだけじゃありません。もう一つ重要な話が・・・、実は立石は木谷先生に好意を寄せていた節があるようです。木谷先生は何度も何度もしつこく立石から空知軒で一緒にラーメンを食べようと誘われていたそうです。父親ほどの年の差があり、また女性をラーメンに誘うセンスのなさにウンザリしていた木谷先生は、上手く立

石を避けながらはぐらかしていたようです」

鈴井「山さん、これは！」

山村「どうやら怨恨の線が濃厚です。立石は好意を寄せていた木谷先生に悪態をついた笠松さんを恨み、殺害した」

鈴井「あとは物証だな。おっ、道警班の皆さんのお出ました！」

道警班の刑事、入ってきて報告。

刑事「鑑識がやってくれました！現場に落ちていた一升瓶から笠松さん以外の人物の指紋を採取しました」

再びざわめく捜査本部。

鈴井「よ～し、でかした～！」

山村「課長、実はもう一手打ってあります」

【イメージ・空知軒（外観）】

山村の声「向井がついさっき、立石の指紋を採ってきとるんですわ」

営業終了後、暗い店舗をノックする向井。

明かりが点く。

【イメージ・空知軒（店内）】

店に入る向井。

山村の声「空知軒の親父に頼んで立石が使った井とレンゲを押えちよります」

店主、向井をみてうなずいて調理場に入る。

ラーメン井とレンゲを緊張して渡す。

向井、白い手袋で受取り、ビニール袋に入れる。

【捜査本部事務室】

山村「たぶん明日の朝には鑑定結果が出ると思います」

鈴井「あんたやるねえ」

山村「ハハハ」

【捜査本部事務室（朝）】

ソファで仮眠をとる捜査員たち。

突然鳴る電話。

道警班刑事、飛び起きて取る。

刑事「はいはい、捜査本部。・・・よっしゃ、一致したか！よくやってくれた、ありがとう！」

刑事、鈴井を見てうなずく。

鈴井「よし！向井、逮捕状請求だ！しょっぴくぞ！」

向井「はい！」

【寿荘前・路上】

車の中の監視班。

二階の立石の部屋のドアをじっと見ている。

ゾロゾロ歩いてくる山村、向井と捜査員たち。

監視班と話す向井。

監視班「昨晚ちょっと外出しましたが、帰ってから一步も出ておりません。今日は学校を休むつもりでしょうか？」

うなずく向井。

部屋をみる山村。

山村「（捜査員たちに向い）配置に付け」

逮捕の配置につく捜査員たち。

【立石の部屋・室外】

ドアをノックする向井。

向井「立石さん、北海道警です。立石さん！今日お休みなのはわかってますよ！立石さん！」

向井、山村を見る。

向井「あれ？いないのかな？立石さ〜ん！」

山村「立石さ〜ん！ ダメだ、新人、大家のところでマスターキー借りてこい」

静かにテーマ曲イン。B・G。

【大家の家】

鍵を借りる向井。

【立石の部屋・室内】

鍵を開けて踏み込む二人。

部屋に上がる二人。

奥の部屋を探す向井。

台所と風呂を探す山村。

向井「いない！」

布団をひっくり返す。

山村「こっちもだ！」

奥の窓を開けると地上に垂れ下がる登山用ロープ。

向井「畜生！逃げられたか！」

山村「向井、無線で本部に連絡!指名手配だ!」

【根室本線・キハ40(タラコ色)外観】

ディーゼルエンジンの加速音。

ゆっくり流れる富良野の街並み。

だんだん早くなる走行音。

根室行きの表示。

【根室本線・車内】

ボストンバッグの持ち手を握りしめる手。

そのクローズアップからズームアウトすると、座席に緊張して座る男、・・・立石である。

立石の語り「危なかったぜ。まさかあの新米刑事が教えてくれるとはな・・・」

【イメージ・空知軒の近く路地(昨晚)】

立石、コンビニの袋を下げて歩いてくる。

空知軒から出てくる向井を見つける立石。

衝撃を受け、目を見開く。

・・・が、瞬時に背後の尾行の存在に感づき、平静を装い寿荘に帰る。

【イメージ・寿荘(昨晚)】

捜査車両の存在を横目に見る立石。

ドアを閉め、立ったまま目を閉じる。

立石「(口の中で)バ、バレとるンか、・・・も、もうダメだ」

【根室本線・車内】

立石越しに流れる車窓の風景。

立石の語り「こうなったら仕方あるまい。とにかくどこまでも逃げるんだ」

【根室本線・外観】

スピードに乗って進む車両。

【根室本線・車内】

車窓を眺める立石。

流れていく景色。

過ぎ去る踏切。

過ぎ去る「麓郷 17km」の看板。

【郊外・踏切】

踏切音。

踏切を踏んで遠ざかっていく車両。

テーマ曲大きく盛り上がって。

(おわり)